

1. 研究目的

近年、核家族や共働きの家庭の増加により母親への子育ての負担が大きくなった。その影響で親子が互いにストレスを感じるような環境が出来上がりやすくなってしまっているのではないかと考えた。そこで、一番密接に親と子がかかわる新生児から幼児にかけての期間に着目し、その期間においてよりよい親子関係を築くことを目的とする。

2. 調査と分析

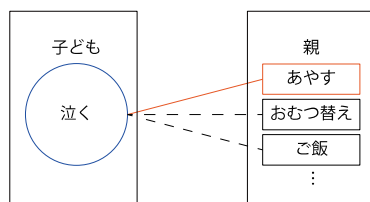
(1) 無印良品のアンケートによると近年の子ども用家具で要らなかった物はプレイマット(38.0%)サークルガード(34.4%)ベビーベッド(28.2%)など、高価で使用期間が短い物が多く、大人用のものを代用する例が多く見られた。その場合子どものサイズも合っていないので危険性が高い。

(2) ベビーカーを使用している親子は多くみられるが、ベビーカーに子どもを乗せずに荷物入れとして使用して子どもは自分で抱き上げていることがよくあった。

以上のことから子どもに適切な環境を与えられていないケースがあるということ。また、家以外の環境に慣れない子どもは落ち着くことが難しく、それによって親にも大きな負担をかけることにつながってしまう。

3. コンセプトの立案

「親子ともにより健やかに暮らせる。」



快適で落ち着いた環境の提供 その時の行動をサポートする

子育てをするうえで大切なのは子どもの成長である。そのためには子どもだけのサポートではなく育てる側の親にもサポートが必要であると考えた。そこで、双方がより健やかに暮らせる環境づくりを提供することにした。

4. デザイン展開

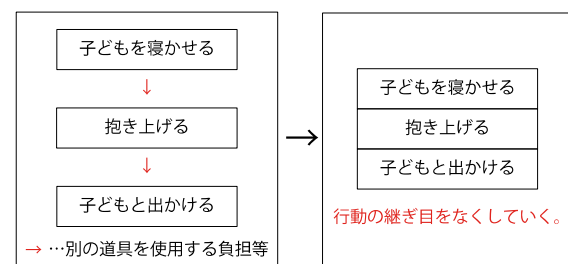
・子どもへのサポート→安心感を提供

子どもにとっての適切な環境とは、最も長い期間を過ごすであろう「自宅に居るような感覚」が第一と考えた。常に使用されている布団の形状を基にそこ

から抱っこひもやクッションに変形できるようにすることで、家での快適な環境をほかの環境につなげる工夫なると考えた。

・親へのサポート→行動のスムーズ化

上記のように一つの変形させることで親が子どもに対してする一つ一つ行動をスムーズに行えるようにした。



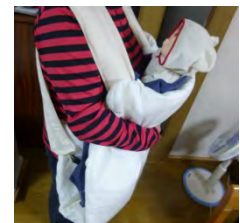
・変形の手法

変形させる事に対しては誰でも手軽に分かりやすくするために、素材は布地だけを使い複雑な操作をさせないようにした。

5. 完成図



布団



抱っこひも



クッション

6. 結論

子育ての経験のある人に動作の検証をしてもらった。提案自体は抱っこひもをそのまま下せて便利だと意見を得ることができた。この研究を通して、親子双方の心のゆとりが重要でありそのために道具が果たせる役割は大きいと感じた。

文献

「子供に必要な家具についてのアンケート報告(無印良品)」
<http://www.muji.net/lab/living/thm07-02-report01.html>